



2026年10月 2日
第58号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

イーハトーブ

9月30日号

1985年8月12日午後6時56分、お盆の帰省客らを乗せた羽田発伊丹行き日本航空123便が群馬県上野村の「御巣鷹の尾根」に墜落し、520人の命が突如として奪われた。航空史上、単独機として世界最悪の惨事が発生してしまった。この事故で、日本航空は二度と事故を起こさないと誓った。

事故の教訓を風化させてはならないという思いと、安全運航の重要性を再確認する場として、日本航空は安全啓発センターを2006年4月24日に開設。私自身、安全啓発センターに行ったことがある。墜落事故の理由として、大阪空港着陸時に起こした尾部接触事故の修理に際し、ボーイング社により行われた後部圧力隔壁の上下接続作業の不具合により、7年間の飛行でその部分に多数の微小疲労亀裂が発生。その亀裂が次第に伸長し、この飛行で隔壁前後の差圧が大きくなった時点で亀裂同士の繋がりが一気に進んで崩壊、2ないし3平方メートルの開口部ができたものと言われている。前の事故で修理して接続したものを運用していた。車で例えて言えば、事故車同士をくっつけて接続し販売しているのと同じである。

JR東日本でも同じような事象が発生している。2024年9月19日に東北新幹線において走行中に列車分離した事象である。電気連結器が外れ自動停止した。その半年後にも同じ事象を繰り返し発生させている。分割併合制御盤が故障していたにもかかわらず、原因は違うものとしてきちんと調べず、故障している分割併合制御盤と誤って交換したため、列車分離が再発した。この他にも架線切断等の輸送障害が多発し、結果として2026年3月に安全対策として800億円投じたが、安全にお金を掛けない結果として、輸送障害が多発している。しっかり安全問題に力を入れていかなければならない。

そして、今年御巣鷹山に行くことになった。事故現場に行き、自分がどのように感じるのか？どう変わるべきなのか？を考えていきたい。

(T.F)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。